

一般社団法人
兵庫県病院協会

会報

● 発行 ●
一般社団法人兵庫県病院協会
〒651-0086
神戸市中央区磯上通
6丁目1番11号
兵庫県医師会館7F
TEL (078) 251-3030
FAX (078) 251-3011
会報編集委員会
印刷 株式会社 七旺社



目次

— 巻頭言 —

働き方改革と地域医療

(一社) 兵庫県病院協会副会長

地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 理事長・病院長 大西 祥男 3

— 随筆 —

G7広島サミット

(一社) 兵庫県病院協会理事 赤穂市民病院

病院長 高原 秀典 4

但馬の基幹病院におけるコロナ禍の経験と教訓

(一社) 兵庫県病院協会理事

公立豊岡病院組合立 豊岡病院 病院長 三輪 聡一 5

＝ 事務局短信 ＝

兵庫県病院協会第9回定時総会・兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式・記念講演会 7

事務局からのお知らせ 9

＝ 役員就任のご挨拶 ＝

(一社) 兵庫県病院協会理事

川西市立総合医療センター 指定管理者 医療法人協和会 理事長 北川 透 10

(一社) 兵庫県病院協会理事

独立行政法人 国立病院機構 兵庫中央病院 病院長 藤原 英利 10

(一社) 兵庫県病院協会理事

医療法人社団一葉会 佐用共立病院 会長 森 光樹 11

一般社団法人兵庫県病院協会 第5期役員名簿 12

＝ 会員病院紹介 ＝

川西リハビリテーション病院 病院長 柴田 邦隆 13

社会医療法人三栄会 ツカザキ病院 病院長 夫 由彦 15

＝ 編集後記 ＝

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員

西脇市立西脇病院 病院長 岩井 正秀 18



〈表紙の写真〉

兵庫県立舞子公園 (神戸市)

神戸市垂水区の西側から明石市の東あたり一帯の浜は、古くは舞子の浜と呼ばれ、須磨の浜と並ぶ名所として江戸時代には多くの待合茶屋が存在しました。歌川広重画「播磨舞子の浜」では、風や強い波により砂が流され、自然に「根上り松」のような形となった白砂青松の美しい海岸風景が描かれています。明治時代に入ると明治天皇や有栖川宮がよく訪れ、政財界人の別邸が近隣に建設されるようになりました。一九〇〇年(明治三十三年)に初の県立公園として、「舞子公園」が開設されました。

一九八六年(昭和六十一年)から始まった「明石海峡大橋」の建設とその関連工事のため、千本以上の松が別の場所へ移植され、新しく南側の埋立地が公園となりました。ベンチや遊具が設けられ、「台場跡」や「孫文記念館」などの史跡も整備され、多くの人の憩いの場となっています。



巻頭言

働き方改革と地域医療



(一社)
兵庫県病院協会 副会長
地方独立行政法人加古川市民病院機構
加古川中央市民病院
理事長・病院長 大西 祥男

2023年5月8日をもって新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類へと移行しました。3年もの間コロナ対応に明け暮れ、5類移行後感染状況は落ち着いていましたが、6月に入り全国的に緩やかな増加傾向であるのはやや気になるところです。また、報道によると2022年の出生数は7年連続で低下し、77万人台と初めて80万人を下回り、合計特殊出生率は1.26と過去最低であるとのことです。コロナ禍の影響があるとはいえ、改めて人口減少、超高齢社会に直面していることを認識した次第です。

少子化が急速に進み総人口の減少、高齢者人口の大幅な増加に対して、国は将来の医療提供体制改革に関するスケジュールを示しています。新型コロナ対応に加えて2024年から始まる第8次医療計画、外来機能報告に基づく外来医療計画、かかりつけ医機能の明確化とかかりつけ医機能が発揮される制度整備、2025年に向けての地域医療構想とその先2040年に向けた新たな地域医療構想の策定、そして我々が何よりも頭を悩ませている医師の働き方改革です。コロナに振り回されているうちに、医師の時間外労働の上限規制開始まであと1年を切りました。

働き方改革に向けては医師確保、主治医団制、時間外業務と自己研鑽の整理、変形労働時間制、宿日直許可、タスクシフト/シェア、ICTの活用、委員会時間の短縮、病状説明の時間内実施など様々な取り組みがおこなわれています。中でも働

き方に対する医師の意識改革は極めて重要な点です。これまで勤務医の過酷な労働環境によってこの国の医療は支えられてきましたが、勤務医自身の健康を保つことが医療安全面でも重要と考えられ、これまでの働き方を見直すことが求められています。病院の管理者、中間管理職から意識改革に取り組まねばなりません。一方で、医師の働き方改革で地域医療は大丈夫かという点が気になるところです。多くの医師の時間外労働の短縮による医師不足の深刻化、宿日直許可の有無による応援医師確保への影響や、救急や手術等を制限する医療機関が出る可能性やその結果、特定の医療機関への患者の集中など懸念されます。

東播磨圏域のうち当院の診療圏である2市2町(加古川市、高砂市、稲美町、播磨町)人口約40万人の地域においては、2040年には、誤嚥性肺炎、股関節・大腿近位部の骨折、心不全、腎臓・尿路感染症、脳梗塞の患者が1.2～1.6倍に増加します。働き方改革で医師の時間外労働の上限規制がある中で、これらの著しく増加する高齢者の医療は破綻しないでしょうか。当院の循環器内科はB水準で申請中ですが、2035年にはA水準にすることが求められています。1.5倍に増加する高齢者心不全の患者さんを「地域で診る」体制をどのようにして作れば良いかは大きな課題です。認知症高齢者の増加も著しく、75歳以上の心不全患者さんのうち半数は入院時にすでに介護認定を受けておられます。退院困難要因を持った患者さんも年々増加しており、転院先の調整に難渋するケースが多くなってきました。地域医療構想で機能分化・連携をはかり、その結果として高度急性期、急性期、回復期、慢性期の病床機能別に目標病床数にすることも重要ですが、同時に働き方改革を進める中で領域毎或いは疾患毎に将来の医療需要はどうか、その地域での医療が破綻しないか、その地域でどのような医療連携、医療介護連携が必要なのかを具体的に考えていかなければならないと感じています。働き方改革を目前にして地域における医療・介護、さらには住まい・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築も待ったなしです。

2024年4月から施行される改正医療法のもと、院長として時間外労働の上限規制には対応せざるをえず、「土日は診療科内での当番医に任せよう」とお願いしていますが、「自分が処置・手術した患者さんを土日であろうが、診療するのは当たり前じゃないですか」という外科医のスピリットは、いつまでも大切にしてほしいものです。働き方改革が施行された後には医師自身の健康が確保され、その上で地域医療も守られ、決して医療の質の低下や診療に対する責任感の欠落が起こらないことを願ってやみません。

随 筆

G7 広島サミット



(一社) 兵庫県病院協会 理事
赤穂市民病院
病院長 高原 秀典

5月19日から21日までG7広島サミット（主要7か国首脳会議）が開催されました。私は、広島県呉市で生まれ、子供のころの活動テリトリーは「この世界の片隅に」の主人公すずさんの家付近でした。その後、もうじき創立300年となる広島市の中心部にある高校を卒業しました。高校卒業以降50年弱広島で生活したことはありませんが、今回のG7広島サミットは衝撃的であり、連日、報道番組をみておりました。アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、EU、日本の主要7か国の首脳が一堂に会し、揃って原爆死没者慰霊碑に献花を捧げました。ウクライナのゼレンスキー大統領をはじめ、インド、インドネシア、ベトナム、韓国、ブラジル、オーストラリア、クック諸島、コモロの首脳も献花しました。

原爆による壊滅的な被害を受けながらも復興を遂げ、世界の恒久平和を願う広島において、主要7か国および招待国の首脳が揃い、対話したこと自体が大きな意味を持つものと思います。

議長を務めた岸田首相は「G7として、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の重要性を確認し、これを守り抜く決意を示せた。核兵器のない世界という理想に向けた基礎を確保し、核軍縮に向けた国際社会の機運を今一度高めることができた。」と成果を語りました。また、首脳声明では、大小を問わずすべての国の利益のために、国連憲章を尊重しつつ、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を堅持、強化するとうたわれました。

一方で、核廃絶を求める人々や活動家からは不満の声がありました。それは、「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」で、「我々の安全保障政策は、核兵器は、それが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑制し、並びに戦争および威圧を防止すべきとの理解に基づいて」おり、「全ての者にとっての安全が損なわれない形で、現実的で、実践的な、責任あるアプローチを通じて達成される」と核軍縮という理想をめざしていくには核抑止力に頼っている現実的な部分があると述べているからです。

いままでのG7サミットでは、世界経済、地域情勢、気候変動、エネルギー、新型コロナウイルス感染症対策などが主な議題でしたが、今回のG7サミットでは核リスクが高まる中、核軍縮、不拡散についてはじめて踏み込んだこととなります。G7のなかにアメリカ、イギリス、フランスと核保有国があるなかでの議長国日本の調整がうまくいったものと思います。

今回のG7サミットの地、広島は江戸時代は安芸広島で浅野藩が治めており、戦国武将浅野長政の子孫にあたり、同じ浅野家を城主にもつ忠臣蔵の赤穂で医療活動を行っている我々はどうだったのでしょうか。

「誰一人残さず、人間中心で、包摂的で強靱な世界を実現するために、われわれの国際パートナーとして協働していく」ことは、へき地においても人間中心の医療を誰一人残さず十分行えるよ

う病病連携、病診連携の他、他職種が連携して協働することにあると思います。この「協働」は医療圏においてのみならず、病院内多職種間においても重要で、本院の行動目標にあげています。それは、3Kすなわち、「共有、カイゼン、協働」という行動目標です。

G7を中心とした自由主義陣営が結束すれば、中国やロシアなどの覇権主義陣営との対立が固定されて分断がすすんでいくのではないかという懸念がありますが、そうではなく、地域や世界の安定には両者の協働、共存が不可欠であると思います。地域の病院間においても、協働、共存して地域の病院を安定させることがみんなの安心につながります。新型コロナウイルスの感染状況、診療体制や治療薬など兵庫県病院協会において情報共有や連携ができたことで、各病院は安心感がありました。

人口減少する地域において、地域の医療ニーズの変化に対応し、質の高い医療を効率的に提供できる体制構築に向けて医療機関の機能分化や連携をすすめていく観点の地域医療構想ですが、へき地における医療ニーズは、専門診療科にかかるというよりも「なんでも診てもらえる病院である」こと、また、医師、看護師などの医療スタッフの集中が困難であることを認識して地域医療構想の策定をしていくこととなります。兵庫県病院協会会員病院においても「全ての兵庫県病院協会病院にとっての安全が損なわれない形で、現実的で、実践的な、責任あるアプローチ」がとれることによって地域医療体制が充実しますので、今後とも先生がたの医療機関と信頼関係を築きながら人事交流をふくめた連携を密にさせていただきたいのでよろしく願いいたします。

さて、G7首脳や関係者たちが食べたと思われる広島グルメも話題になりました。イギリスのスナク首相が自ら料理したお好み焼き屋は広島駅構内にあります。あなごめしの人気店はJR宮島口駅を降りて右側にあります。牡蠣は流川などの歓楽街、宮島、江田島などどこでもおいしいのがいただけます。赤穂の牡蠣もいいですが、広島産のほうが粒が大きいように思いますので両方召し上

がってください。「やっぱ広島じゃ割り」を使ってG7広島サミット自慢の料理をぜひご堪能ください。

但馬の基幹病院における コロナ禍の経験と教訓



(一社) 兵庫県病院協会 理事
公立豊岡病院組合立
豊岡病院
病院長 三輪 聡一

皆さまご承知のとおり、本年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、また同時期にWHOも緊急事態宣言の終了を発表し、世界的なパンデミックからの脱却を迎えました。本院の新型コロナ感染症災害対策本部も5類に引き下げをもって一旦廃止としました。

2020年1月に中国「武漢」からの帰国者、そして2月の「ダイヤモンドプリンセス号」での感染者発生で始まった本邦での未知のウイルスとの闘い。この3年数ヶ月、医療従事者、行政、患者・家族や住民等が一丸となって協力し取り組んだ結果、ようやく平時を取り戻すことができました。関係各位には長期に及んだ取り組みに御礼申し上げます。この3年数ヶ月を振り返りますと多くの「学び」がありました。平時では気づかなかったこと、想定できなかったことが多くありました。そのいくつかを紹介し、皆さまと共有したいと存じます。

まずは、新型コロナウイルス感染症発生初期の対応です。「マスクがない!」と大騒ぎしたこと、記憶にあらうかと存じます。本院は災害拠点病院であり、災害時に備えて水・燃料・診療材料など一定の備蓄を確保しておりました。局地災害では、基本的に3日間は備蓄で耐え、その後には物資の供給・支援が得られるという想定です。しかし、

今回の全世界的なパンデミック・広域災害は全く別物で、一向に物資の供給・支援の目途が立たず、私は2020年2月初旬にテレビ取材を受け、「マスクの在庫が枯渇する」「手術対応ができなくなる可能性がある」と近況を訴えました。この発信はいわゆる「バズった」ようで、関係各所の協力・支援を得ながら、何とかこの局面を乗り越えることができました。当時は「広域災害」に対する意識・認識が希薄であった、十分に想定できていなかったものと察しています。

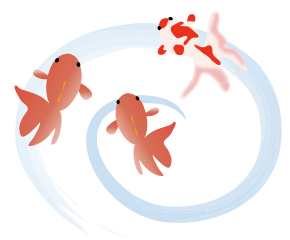
続いては、地域の医療提供体制に関してです。医療提供体制の「一極集中の弊害」を学びました。当院は兵庫県北部・但馬地域で唯一の救命救急センターを有する高度急性期病院であり、2類感染症指定医療機関でもありました。ちなみに、但馬地域（豊岡市、朝来市、養父市、香美町、新温泉町という3市2町で構成）の面積（2,133㎡）は香川県や大阪府よりも広く東京都に匹敵しますが、人口は東京都の約1/100の約15万人です。この広大な地域の5疾病・5事業の全てを担う病院でありながら、帰国者接触者外来の開設や重点医療機関としてコロナ入院患者の受け入れなど、新型コロナウイルス感染症に対する中心的な役割も担いました。高度急性期病院としての機能を損なうことなく通常の診療は行いつつ、6事業目（新興感染症対応）を行うことは容易なことではありませんでした。特に、都会の同規模病院に比べて医師数が半分以下という医師不足の当院では、大変な困難を伴いました。万が一、院内感染でも発生すれば、手術や救急外来などへの影響が計り知れない中、職員や患者・家族にも多大な協力をお願いし、非常に窮屈な日々を強いることになりました。

新型コロナウイルスも菌株の変異により弱毒化が言われるようになってからは、徐々にコロナ感染症医療の提供体制も変化してきました。中小病院や開業医の先生方の対応も進んできました。そして最近になって、ようやくコロナ感染症医療の1次～3次の体制がなんとなくですが、なし崩しの構築されたように感じています。

今回、このような「広域災害」「長期災害」を

経験して、「医療機能の役割分担」「危機におけるリーダーシップ」「地域の枠を超えた医療提供のためのセーフティネット」について考えるべきであると認識しました。全ての機能が集中する当院の診療体制が麻痺すると、但馬圏域約15万人の生命が守れない。このような一極集中の弊害とその是正策としての医療機能の役割分担を皆さまはじめ関係各位と共有できればと考えております。また、今回のような医療提供体制の危機において、地域のみならず県や国など各レベルで適切な医療提供を考案・推進するための強力なリーダーシップを有する組織、当院のような地域で唯一の基幹病院が機能不全に陥った時に強力な支援を提供できるような医療のセーフティネットを構築する必要性も感じました。この3年数ヶ月を無駄にすること無く、再びやってくる「想像もつかない災害」に対応できるような術を用意しておくべきであるという思いに至りました。

今後、皆さまと情報を共有し、行政・医師会の枠組みにとわられず、平時・有事の医療機能の分担と連携について検討を進めていければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。



＝事務局短信＝

兵庫県病院協会第9回定時総会・兵庫県知事感謝状贈呈式・ 永年勤続病院職員表彰式・記念講演会

1. 第9回定時総会

6月10日（土）兵庫県医師会館2階大会議室において、来賓として兵庫県の山下輝夫保健医療部長と兵庫県医師会の八田昌樹会長をお招きし、4年ぶりの兵庫県知事感謝状贈呈式、永年勤続病院職員表彰式及び記念講演会と併せて、協会会員、永年勤続病院職員等の出席を得て開催されました。



開会に先立ち、事務局から、委任状提出、議決権行使を含めた出席者が166名で、定款に定める総会の審議に必要な定足数に達していると報告されました。

定刻の午後1時30分、澤井副会長の開会宣言、大村会長の開会挨拶に続いて、兵庫県山下部長と兵庫県医師会八田会長から祝辞をいただき、その後議事に入りました。定款の規定に基づき議長は大村会長が務め、議事録署名人には、太城力良副会長、大西祥男副会長が選出されました。



大村武久会長開会挨拶



来賓挨拶
(山下県保健医療部長、八田県医師会長)

(1) 報告事項

平田健一副会長から「令和4年度事業報告」、「令和5年度事業計画」及び「令和5年度収支予算」について報告があり、異議なく了承されました。



報告事項及び議案の説明

(2) 議案

・第1号議案 令和4年度収支決算について承認を求める件

大西副会長から、貸借対照表、正味財産増減計算書等により説明があり、続いて山下監事から決算審査報告があり、全会一致で異議なく承認されました。

・第2号議案 第5期理事及び監事選任の件

議長から、次期（令和7年度総会まで）の理事・監事について、本総会で選任する必要があることが説明され、候補者の紹介の後採決に移り、全会一致で異議なく承認されました。

・第3号議案 名誉会長及び顧問の選任の件

議長から、名誉会長及び顧問は総会の承認を経て会長が委嘱する等の説明があり、候補者の紹介の後採決に移り、全会一致で異議なく承認されました。

以上で予定の審議は全て終了し、太城副会長の閉会宣言で総会は終了しました。

また同日、臨時理事会が開催され、新たな理事及び監事の互選により、会長に大村武久理事が、副会長には太城力良理事、大西祥男理事、平田健一理事、高橋玲比古理事の4名が選出されました。（第5期役員等は12ページに記載のとおり。）

2. 兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式

総会に引き続き、長年にわたり病院職員として勤務し、地域医療に貢献された方々に対し、兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式が行われました。

それぞれの受賞者のうち、出席者の所属病院・氏名が読み上げられた後、兵庫県知事感謝状については兵庫県・山下保健医療部長から、永年勤続病院職員表彰状については大村会長から、代表者に賞状と記念品が手渡され、両氏からお祝いのごとばをいただきました。



◆兵庫県知事感謝状受賞者

・49病院165名

代表：西脇市立西脇病院 安藤 幸穂 様



知事感謝状の代表受領

◆永年勤続病院職員表彰受賞者

・30年勤続 79病院310名

代表：神戸市立医療センター西市民病院
山下 展弘 様

・20年勤続 110病院561名

代表：揖保川病院 岩見 明子 様



30年勤続表彰状の代表受領



20年勤続表彰状の代表受領

3. 記念講演会

表彰式終了後、記念講演会が開催されました。

太城副会長が座長を務め、講師の澤芳樹先生(社会医療法人警和会理事長・大阪警察病院院長、大阪大学大学院特任教授)をご紹介したあと、澤先生に「循環器医療の現状とみらい」と題してご講演いただき、会場との意見交換も活発に行われました。

最後に、太城副会長からお礼のことばと閉会の挨拶があり、総会と関係行事は、すべて終了しました。



記念講演 (澤芳樹先生)

お知らせ

令和5年度 病院管理職員等研修会の開催について

会員病院の管理職員、看護職員等を対象とする研修会を以下の日程で開催します。
ぜひご参加ください。

1. 第1回病院管理職員等研修会

日時／令和5年10月2日(月) 14時30分～16時00分
場所／兵庫県医師会館大会議室(神戸市中央区磯上通6丁目1-11)
講師／森 正樹 先生(東海大学医学部長、九州大学名誉教授・大阪大学名誉教授)
演題／調整中

2. 病院看護職員等研修会

日時／令和5年11月13日(月) 14時00分～15時30分
場所／兵庫県医師会館大会議室
講師／野口 直美 先生(一般社団法人エンドオブライフケア協会
折れない心を育てるいのちの授業認定講師)
演題／「折れない心を育てるいのちの授業～援助的コミュニケーションから学ぶ～」



※詳細決定後、会員病院に開催案内を送付します。

役員就任のご挨拶



理事

川西市立
総合医療センター
指定管理者
医療法人協和会
理事長 北川 透



理事

独立行政法人国立病院機構
兵庫中央病院
病院長 藤原 英利

この度、兵庫県病院協会の理事に就任させていただきました医療法人協和会の北川です。当法人の設立は昭和57年で、ちょうどこの年に老人保健法が制定されて老人医療費無料化に終わりが告げられました。昭和60年の医療法改正で医療計画制度が導入され、各都道府県で地域医療計画が策定されるようになり、また平成9年には介護保険法も制定される中で、地域医療構想に沿って病院の機能分化と連携が図られてきました。こうした状況の中で、当法人は兵庫県川西市を中心に、西宮市、大阪府吹田市・豊中市において、病院を中心に介護施設、在宅支援事業を展開し地域包括ケアシステム構築のお役に立てればと考えてまいりました。また、2019年からは市立川西病院の指定管理者となり、2022年に当法人の協立病院と統合再編して川西市立総合医療センターが整備され、引き続き指定管理者として運営させていただいています。

日本の総人口の減少が続く中で、高齢者人口はまだしばらくは増加が続くと予想されています。2025年には団塊の世代の方々が後期高齢者になられ、我が国はさらに難しい局面を迎えることになるのかと思いますが、常に医療・介護を通して地域に貢献していけるよう、病院のみならず、地域の医師会をはじめとするすべての医療機関と介護施設、そして行政もが一体となって地域医療を支えていくことが重要と考えています。今後ともご指導・ご鞭撻いただけますよう、よろしく願い致します。

この度は兵庫県病院協会理事にご選任いただきありがとうございます。私は1983年に神戸大学を卒業して、神戸大学医学部第1外科に入局して以来、消化器外科医として医療に携わってまいりました。2016年より兵庫中央病院に在籍し、2023年4月より里中和廣前院長（現名誉院長）の後を引き継ぎ当院の院長に就任いたしております。

兵庫中央病院はセーフティーネット系医療（神経・筋難病、筋ジストロフィー、重症心身障害、結核など一般病院では治療継続が困難な疾患）の分野においては専門医療を行う兵庫県下の拠点病院として広く認知され、広く内外からの信頼を得ているものと自負しております。一方、認知症センター、消化器センター、糖尿病センターを開設して、一般の方の診断治療にも重点を置いております。神経・筋難病患者を中心とした在宅看護、在宅リハビリテーションなどの取り組みを通じて、地域のみなさまに信頼され安心して受診していただける兵庫中央病院を目指しております。

兵庫県にあります国立病院機構の4病院（神戸医療センター、姫路医療センター、兵庫あおの病院、兵庫中央病院）ともども兵庫県病院協会のみなさまと情報を共有させていただき、微力ではありますが地域医療に貢献できればと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

**理事**医療法人社団一葉会
佐用共立病院

会長 森 光樹

この度、兵庫県病院協会理事に民間病院から就任させていただきました佐用共立病院の森光樹です。

私どもの病院は昭和45年に初代理事長の私の父の呼びかけで、地区の開業医の先生方と一緒に立ち上げられました（病院名が共に立つとなったわけです）。その父の後を受け二代目の理事長として平成2年に私が帰った時には、一代目の先生方は引退されており二代目の先生は私と他一人の内科の先生だけでしたが、その先生も若くして亡くなられてしまった為、その後は私が一人で病院運営を担ってきました。

最初は急性期に特化した病院経営でしたが、新臨床研修医制度に変わってから大学医局人員医師の減少のため、派遣常勤医の削減が重なったことが大きな変わり目になりました。

病院の医師数の減少から以前のような医療体制を維持することが困難となってきました。

また、その後の少子高齢化の波は地方の過疎化と相まって介護ニーズを増やしました。それに合わせて病院もベッド数の削減、長期療養型病院の造設（今は介護医療院）、在宅介護関連施設の建設など、介護関連事業を増やしていった経緯があります。時代の流れに応じて病院も変わらざるをえませんでした。

しかしながら今でも2次救急病院として地区の救急車の受け入れは85%を超えており、急性期医療も頑張っている行っています。

当院に医師を派遣していただいている大学は神戸、兵庫医科、岡山、鳥取大学と多岐にわたり、この他にも姫路赤十字病院、津山中央病院には関連病院として物心共に支援していただいております。わたしどものような田舎の小さな病院に医師に来ていただくのはとても困難です。大学医局の医師派遣がなければ地方の医療を維持する事はできないと思っており、関連医局や病院には感謝をしています。このような地方の中小病院の厳しい現状も病院協会の中で発信させていただければと思っています。どうぞよろしくお祈りします。



一般社団法人兵庫県病院協会第5期役員（任期：令和5年6月10日～令和7年6月）

役職名	氏名	所属・職名
会長（代表理事）	大村 武久	社会医療法人甲友会 西宮協立脳神経外科病院 理事長
副会長	太城 力良	学校法人兵庫医科大学 理事長
	大西 祥男	地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 理事長・病院長
	平田 健一	国立大学法人神戸大学 神戸大学医学部附属病院 前病院長
	高橋 玲比古	医療法人社団さくら会 高橋病院 理事長・病院長
理事	西 昂	医療法人康雄会 西病院 理事長
	木原 康樹	地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院 病院長
	飯島 一誠	兵庫県立こども病院 病院長
	細見 和代	医療法人尚生会湊川病院 理事長
	松本 圭吾	独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院 病院長
	藤 久和	公益社団法人日本海員掖済会 神戸掖済会病院 病院長
	平家 俊男	兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長
	橋本 創	医療法人旭会 園田病院 理事長・病院長
	北川 透	川西市立総合医療センター 指定管理者・医療法人協和会 理事長
	藤原 英利	独立行政法人国立病院機構 兵庫中央病院 病院長
	岩井 正秀	西脇市立西脇病院 病院長
	岡田 裕之	姫路赤十字病院 病院長
	井上 喜通	医療法人社団緑風会 龍野中央病院 理事長・病院長
	森 光樹	医療法人社団一葉会 佐用共立病院 会長
	高原 秀典	赤穂市民病院 病院長
	三輪 聡一	公立豊岡病院組合立 豊岡病院 病院長
	西崎 朗	兵庫県立丹波医療センター 病院長
鈴木 康之	兵庫県立淡路医療センター 病院長	
監事	栗原 英治	社会医療法人社団順心会 順心病院 理事長
	山下 晴央	神戸赤十字病院 病院長
名誉会長	守殿 貞夫	神戸赤十字病院 顧問・医療法人敬愛会 西宮敬愛会病院 名誉院長
顧問	藤原 久義	兵庫県立尼崎総合医療センター 名誉院長・医療法人朗源会大隈病院 名誉院長
	澤井 繁明	社会医療法人愛仁会 明石医療センター 名誉院長

会員病院紹介

川西リハビリテーション病院



病院長 柴田 邦隆



◆はじめに

昭和25年から猪名川町北田原の土地で70年あまり、医療介護を提供してきた「今井病院」が、今年の4月に猪名川町から川西市北部地域の東畦野（旧市立川西病院跡地）に名称を「川西リハビリテーション病院」と改めて、新築移転しました。新名神高速道路・川西ICのすぐ近くに位置します。病床数160床のうち120床が回復リハビリテーション病棟で40床が障害者病棟で構成されています。所属する医療法人晴風園がもつ各老健施設、グループホーム、訪問看護、居宅介護支援事業所と連携し、また川西市北部から阪神地区、北摂地区の地域にかけての医療、介護施設との連携のもと、高齢者医療・介護を中心として地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

◆スタッフ

令和5年6月時点で、全病院の職員数は301名（うちパート76名）から構成されています。内科・リハビリテーション科・小児科を標榜していますが、医師は6名の常勤医師からなり、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、消化器内科、循環器内科

の専門の医師からなり、ほかに神経内科、皮膚科、歯科、内視鏡医にそれぞれ週1回応援してもらっています。

薬剤師は10名、臨床検査技師5名、X線技師2名、管理栄養士5名、調理師16名います。看護師は外来・入院合わせて127名（パート33名）療法士はすべて常勤でPT47名、OT21名、ST7名、歯科衛生士1名です。MSWは9名、事務職は26名（パート10名）からなっています。

◆診療内容

外来診療については、市立川西病院跡地への移転条件であった川西市北部・猪名川町に不足する医療体制を補うため、内科と小児科の外来診療を開始しています。そのため、外来診察室が3診と内視鏡検査やCVポート埋め込み術やPEG造設など簡単な小手術が可能な処置室を設けています。3診は感染対策用に導線の異なる出入口も設置しています。CT検査、エコー検査（心・乳腺・腹部・血管）ならびに上部、下部内視鏡検査が可能です。VF検査が可能な透視室も設置しています。また10床の地域包括ケア病床の設置予定ですが、要件である時間内の救急診療に対応するため、時間内の臨床検査とX線検査が可能な体制をとっています。

川西市北部・猪名川町地区の休日診療を担うことになり、地域医療連携推進法人の川西・猪名川地域ネットワークの協力の下、休日の応急診療所業務を4月から開始しています。実際には川西医師会の先生方が診療を担当しています。

入院診療については新たに導入されたインフラシステムの大きなポイントは6階に展開されるリハビリセンターです。300平方メートル以上の広々としたスペースに各種リハビリ機器を配置し、マシンを使っただけの筋力強化や体力強化、高次脳障害に対して失語症などの評価ツールや練習用品を装備し、在宅復帰を目指す患者さんのためのADLハウスは日常生活の練習などが可能です。センターの外、屋上に、見晴らしのいい空間での不整地な

ど屋外歩行練習が可能なリハビリテラスも設置しています。

2階から5階の4病棟はそれぞれ40床の病棟単位でいずれも個室4、2人部屋4、4人部屋7室からなり、広い談話室と広いリハビリ療法室およびOT、ST用の療法室（個室）と処置室があり、リハビリカンファや家族カンファを行う相談室もあります。廊下も広く、患者さんには一日2～3単位のリハビリをセンターや病棟内で快適に受けていただけるように手配しています。

◆当院の果たすべき役割

日本は高齢化社会が世界で一番早く進んでいる国です。15歳から64歳までの生産者人口が65歳以上の老年人口のわずか2倍しかなく、2人で1人の高齢者を支えている現状です。また老年人口は都市部では2030年ごろまで増加するようです。自立して元気で暮らせる高齢者の方が少しでも多くいると若い世代の方の負担は軽減されます。そのために急性期治療を終えて在宅復帰を目指す患者さんを扱う川西リハビリテーション病院の役割はとても重要であると考えています。

新しい建物に最新の医療機器を備え、医師、看護師、リハビリセラピスト、薬剤師、管理栄養士などチームで取り組み、安心安全で、質の高い医療・介護を提供できる、地域の住民の方から信頼される病院になる所存です。限られた医療スペースの中で、回復期医療だけでなく、小児科診療や応急診療などの急性期医療を提供するにはいろいろハードルは高いですが、病院職員一丸となり、地域の病院・診療所と連携することで、実現できるものと信じています。よろしくお願ひします。

病院の基本理念と基本方針

理念

こころざしを紡ぎ、技術を紡ぎ、変わりゆく未来に挑みつづけます

基本方針

1. 安全、安心を重んじ、だれからも信頼される病院づくりに努めます

2. そのひとらしさを大切に、回復を願ひ、リハビリテーションの提供に努めます
3. こころ、技術を磨き、たがいに成長できる職場づくりに努めます
4. あらゆる資源を適正に使い、健全経営の実現に努めます

病院の概要

- 名称：医療法人晴風園
川西リハビリテーション病院
- 所在地：兵庫県川西市東畦野5丁目18番1号
TEL：072-795-0070
FAX：072-795-6311
- 診療科目：内科、リハビリテーション科、小児科
許可病床数：回復期リハビリテーション病棟
120床（うち地域包括ケア病床10床）
障害者一般病棟40床
- 施設概要：建物敷地5,583.90㎡
建物 鉄筋コンクリート造 地上6階建
建築面積1,908.36㎡
延床面積7,450.62㎡
- 法人関連事業：・伊丹せいふう病院
・阪神リハビリテーション病院
・宇治リハビリテーション病院
（旧ほうゆうリハビリテーション病院）
・せいふうクリニック
・杉生診療所
・介護老人保健施設せいふう猪名川
・小規模多機能介護老人保健施設ふれあい大島
・介護老人保健施設せいふう若葉
・グループホーム北田原
・訪問看護ステーションせいふう
・居宅介護支援事業所せいふう

医療法人晴風園 主な沿革

- 昭和25年6月 今井病院：晴風園今井病院を猪名川町北田原に開設
- 昭和61年1月 杉生診療所：医療法人晴風園杉生診療所を開設
- 平成8年10月 今井病院：完全型療養型病床に転換（271床）

平成13年10月 介護老人保健施設せいふう：介護老人保健施設せいふうを開設（入所定員80名）

平成23年 2月 今井病院：回復期リハビリテーション病棟を開設（1病棟18床）
小規模介護老人保健施設ふれあい大島：小規模介護老人保健施設ふれあい大島を開設

平成30年 4月 今井病院：病床数変更（271床→111床）
せいふう若葉：介護老人保健施設せいふう若葉を開設
グループホーム北田原：グループホーム北田原を開設
阪神リハビリテーション病院：阪神リハビリテーション病院（160床）を新築開設

令和2年 6月 晴風園：医療法人萌友会ほうゆうリハビリテーション病院（88床）が、晴風園と合併

令和5年 4月 川西リハビリテーション病院：障害一般病床40床、回復期リハビリテーション病棟120床（40床×3単位）を新築移転

7月 宇治リハビリテーション病院：回復期リハビリテーション病床88床（44床×2単位）を新築移転

社会医療法人三栄会

ツカザキ病院



病院長 夫 由彦



◆はじめに

当院は兵庫県姫路市西部に位置し、JR網干駅から徒歩12分の田畑の真ん中に立地しています。播磨姫路医療圏域内にある中核病院の一つとし

て、地域の皆様のご期待に応えるべく、急性期医療・救急医療を中心に診療内容の充実に努めているところです。

病院理念・基本方針

病院理念

地域最高水準の医療レベルを達成し、治療成績の向上に努める。

基本方針

1. 正しい高機能な急性期病院として発展するよう努力する。
2. 救急医療を一層充実させ地域医療に貢献する。
3. 地域の医療機関との連携を重視した地域医療を目指す。
4. 病院経営の安定に努める。

病院概要

常勤医師：102名 基幹型臨床研修病院

診療科目：

脳神経外科・外科・消化器外科・呼吸器外科・心臓血管外科・整形外科・乳腺外科・形成外科・総合内科・糖尿病内科・感染症内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科・人工透析内科・眼科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・救急科・リハビリテーション科・病理診断科

病床数：406床

以下2022年度の実績

新規入院患者数／平均在院日数：7,120名／12.3日

病床稼働率／手術件数：94.5%／10,075件

救急車（ドクターヘリを含む）受け入れ件数：5,096件

得意な診療

脳神経外科手術：

脳血管内手術208件（うち、脳血栓回収術97件）、脳血管障害手術128件、脊髄脊椎手術148件、脳腫瘍手術27件

心臓血管外科・循環器内科手術：

心臓・胸部大血管手術174件、経皮的冠動脈形成術（PCI）346件

整形外科手術：大腿骨近位部骨折手術258件

眼科手術：白内障手術4,760件 など

病院の特色と強み

脳卒中センターと心臓・血管センターでは救急隊とのホットラインを設けており、24時間365日対応しています。播磨姫路医療圏域の急性期基幹病院としての役割を果たしています。眼科では年間約7,000件の手術や先進医療にも取り組み、他府県からの患者さんも受け入れています。2019年6月には、先端画像・低侵襲治療センター（Advanced Imaging and Minimally Invasive Therapy Center, AIMIT）を開設し、新型血管造影装置（DSA）4台、磁気共鳴画像装置（MRI）3台、MDCT 3台などを配置しました。さらに、MRガイド下集束超音波治療も実施しています。脳神経外科・循環器内科・放射線科など複数の診療科が協力して、より患者さんの負担を減らし、

高度な治療を提供できる体制を整えています。

病院の歩みと展望

ツカザキ病院は、2003年3月に姫路市下手野から西へ9km離れた網干区に新築移転して、診療を開始しました。当院が立地する姫路市網干区周辺地域では、人口当たり医師数が全国平均よりかなり少なく、かつ医師の高齢化率も高く、急性期医療施設が乏しい状況にあります。2007年12月には、姫路市内救急搬送について批判的な全国報道がなされました。その後、徐々に改善はしていますが、救急搬送困難事案が多い状況は現在も続いています。当医療圏域では、医師数が少ないため医療提供体制が制限されており、救急搬送困難事案が多いことはその象徴となっています。

当院に対する患者さんと救急隊のニーズは高く、病床稼働率が100%を超えて、不本意ながら満床理由の救急お断りが多数生じておりました。急性期医療・救急医療のニーズに応えるため、常勤医師と職員を増やして、増床と増築を繰り返しました。2022年5月には姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院が、姫路駅東に新設する「はりま姫路総合医療センター」に統合移転しました。最も近隣にある2つの基幹病院が姫路市東地区に移転しますので、当院としては医療の空白地帯ができないように準備するため、さらに常勤医師数を増やし、施設規模を拡大する必要性がありました。そこで、既存の本館に連続する西館を増築し、2022年1月より稼働しています。西館が完成した後は、ハイブリッド手術室、ロボット手術室等を備えた400床規模の急性期病院として、面目を一新しております。網干区での診療は、2003年から、許可病床数161床、常勤医師14名で始まり、2003年度の診療実績は、救急車受け入れ件数1,064台、手術件数1,067件（内全身麻酔手術件数503件）でした。そこから20年経過して、許可病床数406床、常勤医師102名となりました。2022年度の診療実績は救急車受け入れ件数5,096台、手術件数10,075件（内全身麻酔手術件数2,144件）となっています。当院が規模を拡大するにあたり、行政、医師会そして大学医局の皆様には、多大なご支援をいただ

きました。厚く御礼申し上げます。そして何より、患者さんと地域の皆様からご支持をいただきましたことに、心から感謝いたしております。

製鉄記念広畑病院跡地には、後医療として地域密着型の三栄会広畑病院が2023年2月に開院しました。網干ツカザキ病院と三栄会広畑病院は一体運営を行い、姫路市西地区と西播磨地域全体の医療ニーズに応えることとなります。まさに地域の方々の当法人への期待が高まっている状況です。今後益々の増加が確実となる『急性期医療・救急医療』において、水準の高い正しい医療を提供できるよう、全職員一丸となって励む所存です。

————— 病院の沿革 —————

- 昭和38年 4月 姫路市下手野にてツカザキ外科
開設 病床数20床
- 昭和52年 1月 医療法人三栄会
ツカザキ病院へ名称変更
病床数107床
- 昭和57年 4月 脳外科病棟増築増床 病床数161床
- 平成15年 3月 姫路市網干区和久へ新築移転
- 平成22年 4月 特定医療法人三栄会 認可

- 平成25年 4月 南館増築 40床増床
SCU6床開・心臓血管センター
開設 病床数201床
- 平成27年 4月 SCU12床へ拡張 病床数201床
- 平成29年 1月 社会医療法人三栄会 認可
- 平成30年10月 南館改修
回復期リハビリテーション病棟
40床 病床数241床
- 令和元年 6月 北館増築AIMIT（先端画像・低
侵襲治療センター）を開設
- 令和3年 7月 コロナ専用病棟（CHCU）増築
12床開設 病床数253床
- 令和4年 1月 西館増築、ハイブリッド手術室、
外来拡張、一般病床44床増床
病床数297床
- 令和4年11月 本館改修
一般病床38床、HCU 2床増床
病床数337床
- 令和5年 2月 三栄会広畑病院オープン
ツカザキ病院 病床数406床・
三栄会広畑病院 病床数130床



ハイブリッド手術室



手術支援ロボット da Vinci



先端画像・低侵襲治療センター（AIMIT）



MR ガイド下集束超音波治療

編集後記

令和5年会報夏季号をお届けいたします。

巻頭言では、大西副会長が、喫緊の課題である働き方改革と、その地域医療に対する影響について述べられています。様々なことが懸念される中、医師としての「スピリット」は大切にしてほしいという一文には、大きく頷くところであります。

随筆では、高原理事がご自身の出身地である広島において開催されたG7サミットに関する熱い思いを語られました。また、三輪理事は地域の高度急性期病院として、新型コロナウイルスとの闘いにおける労苦と今後の問題点について書かれています。

今号では会員病院として、川西リハビリテーション病院とツカザキ病院が紹介されました。両院共に地域の状況、医療の必要性に合わせて、改革し、発展してきた経緯が良く理解できる内容となっており、将来に向けて

の抱負も表明されています。

また、今年も新たに役員に就任された先生方をお迎えしました。先生方にはご多忙にも関わらず、ご挨拶をいただき誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたとはいえ、市中ではいまだ感染者の発生を持続的に認めています。まだまだ決して油断はできませんが、それでも、ウイズコロナの時代の始まりと共に、今年はこれまでとは少し違った、開放感のある夏となることを願って止みません。

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員

岩井 正秀

西脇市立西脇病院 病院長 記

